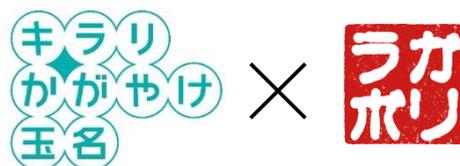


玉名市と津曲研究室 連携の歴史

熊本県立大学総合管理学部総合管理学科情報管理コース
津曲研究室



AR 技術を使った新たな観光の開発

期間

H22（2010）年 8 月～H24（2012）年 3 月

事業内容

玉名観光協会と連携し、地域調査を丹念に行い、AR（Augmented Reality—拡張現実）を使った新しい観光づくりに取り組んだ。スマートフォンアプリの“セカイカメラ”を使って見ることができるエアタグに玉名の観光情報を載せて、視覚だけでは見えない玉名の魅力を来訪者へ提供するための観光ツールとして利用した。

<セカイカメラ（図 1）とは>

頓智ドット（トンチドット）株式会社が開発した、現実の背景に情報を重ねて表示する「拡張現実（AR）」と呼ばれる技術を用いたスマートフォン用アプリケーション。スマートフォンの GPS 機能により位置情報を取得し、スマートフォンカメラを通してみる景色に「エアタグ」と呼ばれる情報を貼り付けたり、他のユーザが貼り付けたエアタグを閲覧したりすることが可能であり、個人利用のみならず、観光看板、道案内看板や店舗紹介など、社会的インフラとしての活用も期待されている。

※現在、サービスは停止している。



図 1 セカイカメラ使用時の様子

活動年表

2010年 8月	高瀬地区をフィールドワーク
11月	玉名フィールドワークの予備調査 学園祭(白垂祭)での広報活動・セカイカメラの検証実験（写真1—1）
12月	玉名フィールドワーク実施（写真1—2） エアタグにのせる情報のまとめ作業
1月	エアタグの取り組みが熊日新聞で取り上げられる（写真1—3） 玉名の音声情報収集フィールドワーク 玉名からの USTREAM 放送に参加
2月	NHK 熊本からの取材を受ける（写真1—4）
3月	NHK 熊本「クマロク」で放送
2011年 6月	玉名市高瀬地区主催イベントのボランティア参加 玉名市花しょうぶ祭りでのアンケート調査（写真1—5）
7月	玉名市観光協会及び関係者との合同打ち合わせ
8月	玉名市高瀬地区主催イベントへの参加
9月	県北エリア(山鹿・菊池・荒尾)調査に向けた観光協会への挨拶まわり 山鹿・菊池のプレ調査
10月	山鹿豊前街道フィールドワーク、 玉名市高瀬でのインタビュー調査 学園祭(白垂祭)での広報活動準備
11月	学園祭(白垂祭)での広報活動・セカイカメラの検証実験 荒尾市フィールドワーク

写真資料 1 : AR 技術を使った新たな観光の開発



写真 1-1 学園祭でのセカイカメラの検証実験



写真 1-2 玉名フィールドワーク実施

15 県内総合 平成23年(2011年)1月7日 金曜日 熊本日日新聞

スマートフォンかざすと…画面に建物の説明・感想文など表示

玉名の助っ人 携帯アプリ

玉名市の玉名観光協会は、3月の九州新幹線全線開業に合わせて情報発信を強化しようと、スマートフォン（多機能携帯電話）のカメラ機能を利用した県内初の取り組みを進めている。

利用するのは「セカイカメラ」というアプリケーション。カメラをかざすと、「エタグ」と呼ばれる絵柄が画面上に表示され、絵柄に触れると説明・感想文のほか、近々の観光スポットの写真を表示する。「詳細な情報を現地を確認できる」と、同協会の柿添克也事務局長(49)。

同協会は、県立大の総合管理学部生20人、高瀬地区の商店主とタッグを製作中。3月12日の新幹線開業までに玉名温泉で50個、同地区で100個作り、商店概要や店主のインタビュー動画のほか、歴史散策が楽しめるよう同地区の街並みを収めた古い写真も盛り込む。

市内の宿泊と日帰りを含めた観光客は、2005年の23万7千人から09年は1万2千人に減少。作製は2月12日。受付は、info@tamaki.or.jp、0968(44)0906

同協会によると、佐賀城下ひなまつりでタッグに観光地のクイズを仕込み景観に出す仕掛けを打ち出したところ、来場者が大幅に増加したという。

市の新しい玄関口となる新玉名駅の画面上に振るタッグのデザインは募集中で、締め切りは2月12日。受付は、info@tamaki.or.jp、0968(44)0906

エタグが張りついた玉名市の高瀬地区の画像(玉名観光協会提供)

観光協会 観光客誘致へ情報発信強化

早稲田の取り組み

玉名総局 TEL 0968(73)3078 FAX 0968(73)3079
山鹿支局 TEL 0968(44)2433 FAX 0968(44)3433
菊池支局 TEL 0968(25)2545 FAX 0968(24)5855
大津支局

写真 1-3 セカイカメラの取り組みが新聞で取り上げられる



写真 1-4 NHK 熊本から取材を受ける



写真 1-5 花しょうぶ祭りでのアンケート調査

天水の町で観光を通じた地域づくり

期間

H24（2012）年4月～H25（2013）年3月

事業内容

玉名市商工観光課と連携し、天水の町を舞台に、観光を通じた地域づくりのあり方についての研究を行った。学生をターゲットとし、学生に対するマーケティング調査や、モニター調査などを繰り返す中で、天水町には学生が興味をひかれるような観光資源が複数存在しているのにも関わらず、その存在が学生まで届いていない、ということが明らかになる。そこで、天水町に存在する豊富な観光資源を学生に知ってもらえるような情報発信媒体として、天水町の観光パンフレット（図2）を作成、効果検証を行った。



図 2 作成したパンフレット

活動年表

5月	玉名市天水でのフィールドワーク事前準備と地域の交流会に参加 熊日で玉名での取り組みが取り上げられる（写真2-1） 玉名まちあるき体験―“うろんころん高瀬”に参加（写真2-2） うろんころん高瀬に参加したことが熊日で取り上げられる
7月	学生アンケート実施 玉名市天水地区フィールドワークと吉本哲郎氏「地元学」講演（写真2-3）
8月	アンケート集計・分析 玉名市天水地区観音様祭り参加 地域住民との打ち合わせ会議
9月	1泊2日天水モニター調査実施（写真2-4） 天水観光パンフレット作成開始
10月	旅行雑誌「遊人」取材 キラーフォト撮影講座実施（写真2-5） 天水観光パンフレット取材実施
11月	観光パンフレットのモニター調査実施
12月	草枕交流館にて最終研究成果発表会（写真2-6） 天水での活動が熊日に取り上げられる（写真2-7）

38万4千円...
ま狙改1代聞見...

ローカル
ワイド
県北

ニュースや
話題の提供は
玉名総局
TEL 0968(73)3078
FAX 0968(73)3079



天水の魅力 発信だ

県立大総合管理学部津曲研究室の学生10人が12日、玉名市天水町で、住民と協力した観光プランの開発に着手した。卒業研究の一環として、1年かけて住民と情報交換。合宿なども実施して地域の魅力を探る。

初日は草枕交流館で市職員や地元住民らと顔合わせ。夏目漱石の小説「草枕」の舞台で、ミカンの産地としても知られる天水町の課題や現状を聞いた。

市商工観光課の平野利和主任は「天水は観光資源は豊富だが、阿蘇などに比べ訪れる人は少ない。若い感性を生かしてPRしてほしい」と激励。

代表で4年の村中美穂さん(21)は「天水のことをよく知らない学生も多いが、知らないからこそ分かる魅力もある。地元の人も気付かない、埋もれた魅力を発掘したい」と話した。

(東木由紀子)

県立大学生ら 1年かけ卒業研究

「草枕」、ミカン...観光資源豊富



「天水の新たな魅力を発信したい」と意気込む県立大総合管理学部の学生ら。玉名市天水町

写真 2-1 玉名での取り組みが新聞で取り上げられる



写真 2-2 うろんころん高瀬に参加



写真 2-3 天水地区フィールドワーク



写真 2-4 吉本哲郎氏「地元学」講演



写真 2-5 1泊2日天水モニター調査実施



写真 2-6 キラーフォト撮影講座



写真 2-7 草枕交流館にて最終研究成果発表会

11 県内総合 平成24年(2012年)12月25日 火曜日 熊本日日新聞

原色を使って木綿のキャ...

園長り(36) たの来水釜指巻作マ手大が...

ローカル 県北

ニュースや話題の提供は
玉名総局 TEL 0968(73)3078 FAX 0968(73)3079
山鹿支局 TEL 0968(44)2433 FAX 0968(44)3433
菊池支局 TEL

天水町の魅力 ぎゅっと凝縮！ 県立大生がパンフ作成

県立大総合管理学科の学生7人が、玉名市天水町の魅力を伝えるパンフレット「みかんの木のところで逢いましょう。」を作成した。絶景が楽しめる展望公園やミカン狩りができるミカン園など、町を歩いて発見したお薦めスポットなどを満載。熊本市のホテルや大学などに2万部を配布し、町をPRする。学生たちは卒業研究の一環として、市と連携して5月から天水町の観光振興策づくりに取り組んだ。若

者の観光客が少ないことに注目し、県立大生を対象にアンケートを実施。「旅行の際は紙媒体を参考にする」との回答が多かったため、パンフレットを作った。

友達に話し掛けるような紹介文や、「女子会」「デートで」といった楽しみ方の提案も掲載。4年の草原護さん(22)は「ミカン畑から海が見渡せる景観の美しさなど、研究を通して天水の魅力を知ることができた。多くの人に訪れてほしい」と話している。(東本由紀子)

県立大生が作成した天水町の魅力を伝えるパンフレット＝玉名市天水町

写真 2-8 天水での活動が新聞で取り上げられる

学生と玉名とのコミュニケーションポイントを調査

期間

H25 (2013) 年 4 月～H26 (2014) 年 3 月

事業内容

前年に引き続き玉名市商工観光課と連携し、玉名市と学生層を繋ぐ情報の接点（コミュニケーションポイント）を調査した。学生に対するアンケートの結果から、玉名と学生とのコミュニケーションポイントは、「玉名ラーメン」であることが明らかになった。そこで、玉名ラーメンがいかにして、玉名のブランドとして成立したのかの調査を行った。



図 4 実際の海開きポスター



図 3 作成したパンフレット

また、玉名市の新しい観光パンフレットの開発に協力させていただき、玉名市高瀬地区の商店に話を聞いて回り、“物語”を付与した観光パンフレット（図 3）の作成をおこなった。

さらに、ワークショップに関する研究を行っているグループにも協力して下さり、玉名市の鍋松原海岸を舞台に海開きのポスターを作成するワークショップを開催した（図 4）。

活動年表

5 月	大学生向けプレアンケート 商工観光課で企画案プレゼンと花しょうぶ祭りでのインタビュー調査 (写真 3-1、3-2)
6 月	大学生向けアンケートの作成 鍋松原海岸にて海開きポスター作成ワークショップ開催 (写真 3-3、3-4) 海開きポスター作成ワークショップが熊日で取り上げられる (写真 3-5)
7 月	学生向けアンケートの分析 鍋松原海岸海開きポスターが掲示される
8 月	高瀬地区まちあるきの実施 (写真 3-6) 観光パンフレット取材の同行 (写真 3-7) 新聞データベースの分析
9 月	Web アンケートの実施 新聞データベースの分析結果まとめ
10 月	高瀬・温泉街地区パンフレット打ち合わせ 熊本日日新聞社の木村さんへ取材 (写真 3-8)
11 月	県立大生にアンケート実施 パンフレット素材集め—高瀬地区を取材して回る (写真 3-9) 仮パンフレットによる比較実験
4 月	玉名のパンフレットが熊日で取り上げられる (写真 3-10)

写真資料3：コミュニケーションポイント調査&ポスター作成ワークショップ



写真 3-1 商工観光課で企画案プレゼン



写真 3-2 花しょうぶ祭りでのインタビュー調査



写真 3-3 海開きポスター作成ワークショップ様子



写真 3-4 海開きポスター作成ワークショップ表彰式

15 県内総合 平成25年(2013年)6月23日 日曜日 熊本日日新聞

**ローカル
ワイド
県北**

ニュースや
話題の提供は
玉名総局
TEL 0968(73)3078
FAX 0968(73)3079

山鹿支局
TEL 0968(44)2433
FAX 0968(44)3433

熊
日
新
聞

観光ポスターの題材として、潮干狩りを体験する県立大の学生
＝玉名市

海の魅力 観光ポスターに

玉名市岱明町にある松原海水浴場の観光ポスターを、22日、同海水浴場で潮干狩りやビーチスポーツを体験しようと、県立大の学生が作った。撮影した写真を使った。

玉名・松原海水浴場 県立大生が取り組み

てポスターの原画数点を作り、同市に提案する。市は7月11日の海開きに合わせ、約200枚を印刷して物産館などに掲示する。訪れたのは地域情報学を専攻する津曲隆教授の研究室の17人。3年前から卒業研究の題材として玉名の観光PRに取り組んでいる。キャンプ場でバーベキューの後、干潟で貝やエビ、カニを捕り、海水の感触を楽しんだ。砂浜ではビーチフラッグをして汗を流した。学生リーダーの吉村裕子さん(21)＝熊本市＝は「時間が短く、慌ただしい現地体験だったが、生物の多さなどに驚かされた。楽しさを感じられる創造的なポスターを提案したい」と話した。(梅野智博)

写真 3-5 海開きポスター作成ワークショップが新聞で取り上げられる



写真 3-6 高瀬地区まちあるき



写真 3-7 観光パンフレット取材の同行



写真 3-8 熊本日日新聞社の木村さんへ取材



写真 3-9 パンフレット素材集め

ローカル
ワイド
県北

ニュースや
話題の提供は
玉名総局
TEL 0968(73)3078
FAX 0968(73)3079
山鹿支局
TEL 0968(44)2433
FAX 0968(44)3433
菊池支局
TEL 0968(25)2545
FAX 0968(24)5855
大津支局
TEL 096(293)7470
FAX 096(293)9343
荒尾支局
TEL 0968(63)0052
FAX 0968(63)0189



県立大生 玉名市観光マップ作成



観光マップを作った玉名市観光課津曲教授(左)と玉名市

飲食店、呉服屋…お薦め22カ所紹介

県立大生が卒業研究で玉名市高瀬地区の観光マップ「街さんぽ 湯さんぽ」を作った。「歩いて楽しむ」をテーマに各店を訪ねて取材し、試食などの体験談を基に地区の魅力を紹介している。

作ったのは3月まで。玉名温泉街や小谷山総合管理学部の津曲隆 教授(地域情報学)の記載。市などが3万部研究にいた森本和嵩を印刷し、各商店や市さん(22)ら5人。「ま 役所などに置いていこの散策にどのようなる。撮影を担当した宇島情報が必要か」を探ろうと実際に地区を巡って上げた。

地図はA2判で、飲食店や呉服屋などお薦め22カ所を掲載。怪談の息遣いを感じてほ刺しめつをい入れてくれる時間忘れられるほどの店の楽しみをつづっている。(馬場正広)

高瀬地区 歩いて楽しんで

写真 3-10 玉名のパンフレットが新聞で取り上げられる

着地型観光の開発

期間

H26（2014）年9月～現在

事業内容

連携5年目となる現在は、玉名市にしか存在しない観光資源を活用した着地型観光の開発を行っている。着地型観光とは、これまでの旅行商品が都市部の旅行会社で企画・造成される「発信型」であったのに対し、旅行目的地側主導で行うことを指す。これまでは発信型が大半だったが、消費者志向の多様化にともない、地元の人しか知らないような穴場や楽しみ方が見直されており、着地型の観光に焦点が当てられてきている。

玉名ならではのものや、玉名でしかできないことを、玉名の「自然・風土・生活」を中心に、考え見つけ出し、それら観光資源を玉名の地域と絡めた“物語（ストーリー）”とつなぎ合わせ、新たな観光を開発することに挑戦している。現在は、玉名への数回のフィールド調査（図4）を終え、学生独自で着地型観光を考え、その商材をPRするための映像作りを4チームに分かれて行っている。



図 5 事前フィールド調査の様子

活動年表

9月	玉名市との初ミーティング（写真4-1）
10月	第一回事前調査（写真4-2） 第二回事前調査
11月	第三回事前調査 第四回事前調査（写真4-3）
12月	本調査フィールドワーク（写真4-4、4-5） 玉名市観光戦略会議にて活動について発表（写真4-6） 映像制作開始
1月	玉名の方を交えた映像の批評会（写真4-7）
2月	玉名観光戦略会議にて映像発表会

写真資料4：着地型観光の開発



写真 4-1 玉名市との初ミーティング記念撮影



写真 4-2 第一回事前調査の様子



写真 4-3 第四回事前調査の様子



写真 4-4 本調査フィールドワーク（ミカン畑）



写真 4-5 本調査フィールドワーク（柳屋茶舗）



写真 4-6 玉名市観光戦略会議にて発表



写真 4-7 玉名の方を交えた映像の批評会

2015年2月2日作成
編集責任者：津曲研究室 吉村裕子